



## 利益よりも人々を優先

### - パネル1 -

#### 岐路にて：

## 利益よりも人々を優先することを選ぶ

世界には、すべての人に働きがいと尊厳のある生活を確保するだけの十分な富がある。しかし現行のシステムは、富を創出する人々や富を最も必要とする人々に富が配分されないように設計されている。

世界のいたるところで、人権は実現されておらず、不平等は増大し、金融危機後の緊縮策が失業を生み出し、公共サービスと労働権に対する攻撃を促した。世界の多くの場所で、旧来の植民地主義が新しい植民地主義に置き換えられた。私たちは税金、労働者の権利及び環境基準の分野でひたすら底辺に向かう下降競争に直面している。

企業利益が上昇スパイラルをたどるにつれて、富裕なエリートたちにパワーが移り、彼らはその力を使って政府やメディア及び選挙に影響力を発揮してきた。市場正統主義が政治の主流を支配し、それに代わるオルタナティブに関する話はほとんど排除されて、人々の乖離、憤り、社会的分裂に到っている。公的機関に対する信頼が減少するにつれて、私たちはナショナリズム、人種主義及び反動的政治の高まりを目にするようになり、一方では気候変動に対する行動が低迷している。移住者や難民、その他の弱者集団に対する敵意が多くの場所で増大している。

労働組合と社会のなかでの彼らの役割に対する攻撃が頻発しているが、それは労働組合が進歩的な対案を提唱する最後の大衆基盤の民主的機構だからである。こうした攻撃は社会的パートナーの役割を制限し、人権を弱め、民主主義の土台を揺るがすより広範な加速化する傾向の現れである。

グローバル化された世界では、こうした難題の各々が大きく、複雑で、異論があるように見える。しかしそれらのすべてをつなぐものは単純な疑問である：私たちは利益よりも人々を大切にするだろうか？富と権力と特権が多数ではなく少数に属するような世界を私たちは望むのだろうか？私たちは基本的人権と尊厳のために立ち上がる用意はあるだろうか？利益よりも人々を優先させることを選んで反撃している人々の数多くの例がある——そして労働組合はこうした闘いの成功の鍵を握っている。